

マーガレット(sp)の 帯化現象の観察

櫻井 幸枝

2007年6月に問い合わせを受けたもので、持ち込んだ方には「帯化」という奇形であることを説明した。話をする中で奇形を起こした原因を問われたが、帯化は植物にはよく見られる奇形で、その原因も色々あり特定できない、と回答したが、「奇形」という言葉のためかあまりに異様な姿のためか、気持ち悪がって置いて帰ってしまった。捨てるにしても、記録だけはとっておこうと、カメラを持ち出した。



写真1 茎と頭花が帯化している

茎の帯化だけなら見過ごされたものかもしれないが、頭花があまりに巨大になり、異様な姿が目についたのだろう。実際、第一印象は「びっくり」の一言だった。茎はきれいに帯状になり、3ヶ所の葉腋から芽が出ているがこちらは帯化していない(写真1)。写真の上に向かって伸びているのは、帯化した茎が頭花の重さに耐え切れず倒れて、その状態で「上」に向かってのびたためらしい。このように側芽が何本も付くのは帯化の影響か、それとも倒れた影響なのか特定は出来ないが、何かしら関係があるのではないかと思う。

そして、ねじれた頭花の姿(写真2・3)は、複雑で不規則なようだが、よく見ると、不思議と左右対称な規則性がある(図1)。

一般にマーガレットと呼んでいる園芸品には品種がいくつもあるはずで、別種でよく似たものがある点や、このように帯化した姿では正確に同定する自信が無いこともあり、この後、何とか乾燥させることが出来たので、標本として博物館に保管している。



写真2 帯状の頭花



写真3 写真2の反対側

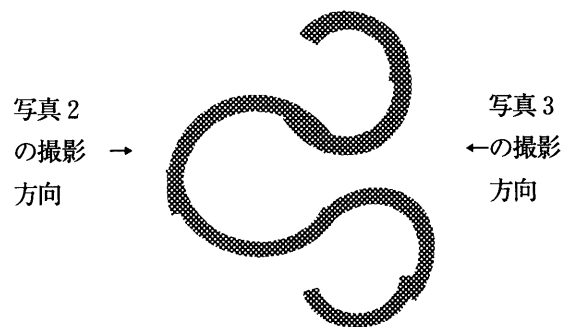


図1. 頭花のねじれ方を簡単に表した

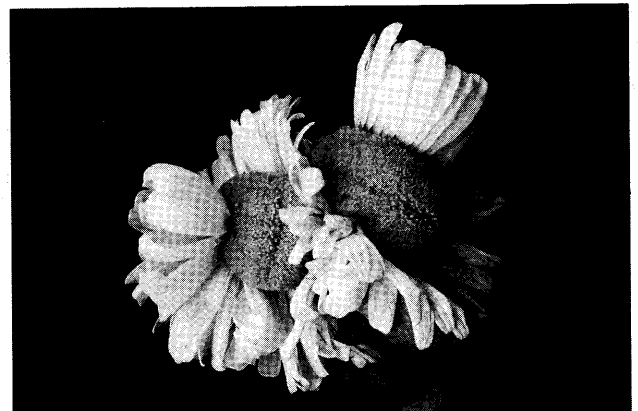


写真4 別角度から見た頭花